

校長研修だより57

教育実習モチベーションアップ講座

2022・5・24 重枝 一郎

先日、教職課程を学ぶ学生が教育実習にきている。私が実習生に話す「教育実習モチベーションアップ講座」の概要を紹介する。私たち全員にこんな時があった。先生方は、教育実習の時どうでしたか？お互いなつかしさを含めた会話をしてほしい。

◆ハートリスニング・ボディーリスニング

「ハーリス」とは「ハートリスニング」の略。「心」で「聴く」ということ。

「ハーリス」の3「ない」・・・じゃまし「ない」、さえぎら「ない」、否定し「ない」

「ボディリス」とは「ボディーリスニング」の略。「体」で「聴く」ということ

「ボディリス」の3「く」・・・向「く」、書「く」、うなず「く」

以前、私は「ハーリス」「ボディリス」という合言葉で、生徒には「聴く」ということを意識させていた。その延長線上で授業を行っていた。

ロールプレイ等で人に説明することがどれだけ大変かを実感させたい。「ハーリス」「ボディリス」してくれると説明しやすいことも実感させたい。だから、教師も授業などで生徒が聴く態度が悪いと、説明するのに苦労することをわからせる。相手の立場に立つことがコミュニケーション力向上になる。そして、日常的に「聴く」意識を大切にさせていく。

◆生徒が満足する授業の3つの要因

① 活動量

「意味」と「感情」を交流できる、快適な活動を仕組む。

② 気付きと上達感

授業を展開する「展開力」の中に、お互いが「承認」「称賛」できるコミュニケーションを仕組む。

③ 楽しさ

友だちとコミュニケーションをとりながら、仲よく学べる空気をつくる。
学級状態も意識した授業づくりがポイントである。

◆授業で適切なコミュニケーションをとるために（チェックリスト）

○言葉にならないサイン（ノンバーバルコミュニケーション）を読む

① 生徒の笑顔を読む	生徒の表情の明るさ、暗さをごく自然に読む。 一番のシグナルは笑顔の頻度である。
② 生徒の目線を読む	気を付けなければならないのは、「伏し目」など、先生と目線が合うのを避ける動きである。とくに目線が斜めにそれた時は気を付ける必要がある。

③ 生徒の距離を読む	教卓をはさんで先生との距離がどのくらいかによって、生徒の心の動きをある程度読むことができる。 心の距離が読めると指導のきっかけがつかめる。
④ 生徒の姿勢を読む	例えば「椅子に座る」姿勢である。 背もたれと背中のかっつき具合はどうか、背筋が極端に曲がっていないかなどのポイントを読む。
⑤ 生徒のしぐさを読む	生徒のしぐさ・動作などにその生徒の気持ちが出る時がある。例えば指名された時の立ち方、教科書の持ち方、髪型にもあらわれることがある。

○ 生徒と親しくなる

① 生徒を見守っているか	生徒に興味・関心をもって見守ることが大事である。 教科書やノート、黒板にばかり目がいかないようにする。
② 明るく振る舞えているか	体調がよくないときや気分がすぐれないとき、暗くなりがちである。無理はいけませんが、生徒を目の前にした時、明るく振る舞うようにする。
③ 生徒と過ごしているか	忙しいのはわかるが、授業が終わったらすぐ職員室にこもって仕事をするのは止めたい。生徒とかわる時間をつくるようにする。
④ 聞き上手になっているか	親しくするには話し上手より聞き上手になることである。 オープンクエスション（というと、もう少し詳しく、どんな感じ）や、あいづち（うんうん、なるほど、わかるわかる）を打ちながら楽しく聴くようにする。
⑤ 自分情報を出しているか	生徒たちの興味・関心と重なるような自己開示をする。

○ 先生としての自分を表現する

① わかりやすく話す	先生としての自分を表現する一番よい方法は、わかりやすい話をするのである。言いたいことを理屈っぽく話すのではなく、エピソードやユーモアを入れて話すと伝わる。
② 心を込めてほめる	先生である自分がそのことに心を動かされているということが明確に伝わるように、しぐさを交えてほめる。
③ あっさり注意する	しつこくならないように、端的に注意する。しかし、気になるポイントについては、ピンポイントで伝える。
④ 一対一で話をする	全体に一斉的に話すのと個別に一対一で話すのと、使い分けが自然にできるようになると教師らしくなる。
⑥ りりしい姿を見せる	先生自身が学び続けているという姿を見せる。学んでいない先生がいくら生徒に「学べ」と声を上げてても、りりしくない。また、弱い者いじめなどの行為はちっともかっこよくないことを日常の先生自身の姿から示していく。